

『うるおいとにぎわいの都市づくり計画』 ～岡山県・新見市～

【地域再生に向けた課題】

◇高齢化、過疎化が進行しており、農村地域では**農林業の担い手不足による耕作放棄地や手入れ不足森林の増加**が、都市部でも**諸産業の停滞、就業機会の不足等**が生じている。

◇市町合併により拡大された市民の生活活動範囲を支える回廊軸を成す**広域道路網の整備**と、これに接続する**道路の改良**を行い、**地域間のアクセス改善**を行わなければならない。

◇草間～豊永赤馬地区一体で盛んに生産している本市を代表する特産物のぶどう、桃、トマトなどの**農林産物の集出荷を始めとする物流**を、回廊軸より新見ICを通じて京阪神・中国地方と、国道180号を通じて岡山市、倉敷市や県南部と効率的に行わなければならない。

◇市内に点在する観光などの拠点施設を活用して、地域内と都市部を連結する高速道路中国縦貫道や国道180号から人を呼び込み、**都市農村交流を促進**しなければならない。

◇IT技術の導入による情報網を地域全戸を対象に整備し、孤立傾向にある集落間を結びつけるほか、地域外へも情報発信を行うことで、拠点施設や地域資源の特性を生かした多様なふれあい・交流を生み出す施策の展開が必要である。

【課題解決への目標、取り組み】

◇中山間地域等直接支払交付金の活用や市の各種施策実施による支援を通じた就農者等の確保、農林業従事者の負担軽減、企業誘致等の継続実施等

◇広域農道、市道、農道、林道等の改良整備による各集落から**各拠点施設へのアクセス改善**
(具体的目標値)
→**各集落から主要県道までの到着時間 10%以上短縮**

◇道路整備に加え、必要な施設整備や生産者への各種支援などの実施による**農林産物の物流の効率化**
(具体的目標値)
→**集出荷時間の10%減少**

◇生活道路の改良等による市内に存在する**交通障害箇所の削減**
(具体的数値目標値)
→**交通障害箇所を保有する路線の5路線解消**

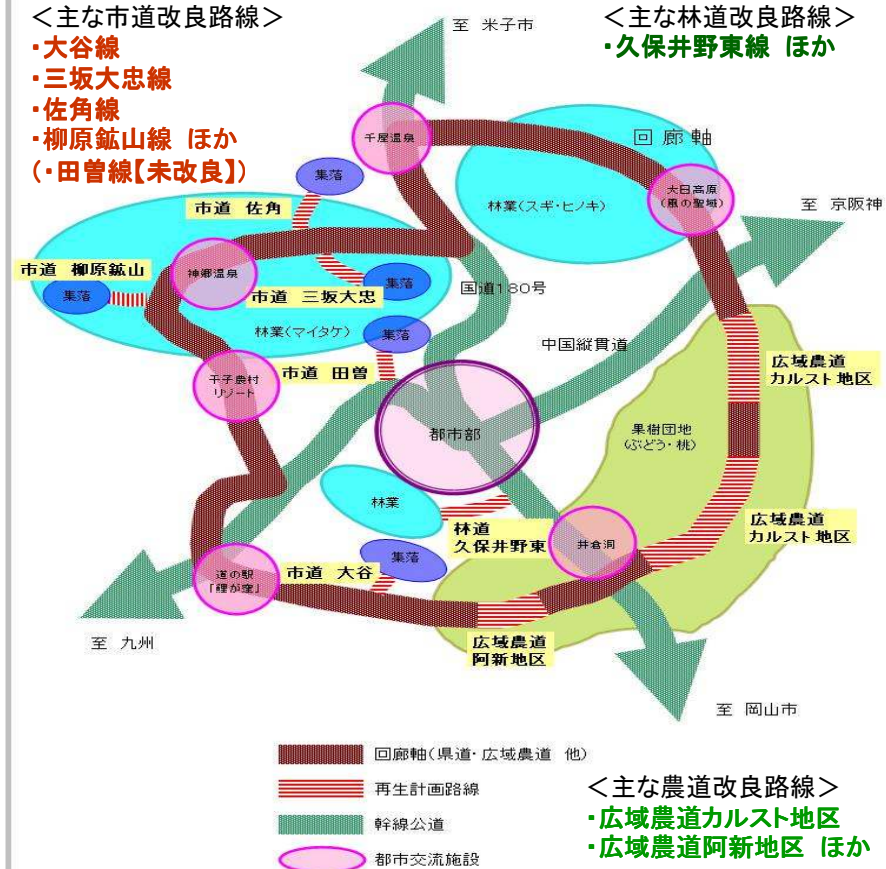
◇本市の自然や歴史、文化等の地域資源を有効に活用した観光の促進、民間なども含めたグリーンツーリズムの実施などによる人と人、地方と都市部の交流の促進、交流人口の増加等

◇市内各戸へ光ファイバ網を敷設するラストワンマイル事業の実施による情報通信基盤の整備及びその活用による地域外への更なる情報発信の実施、交流の促進

【課題解決へ向けた具体的な実施事業】

各拠点施設へのアクセス改善、農林産物の物流の効率化、交通障害箇所の削減を図るため、各種道路改良等をはじめ各種事業を展開

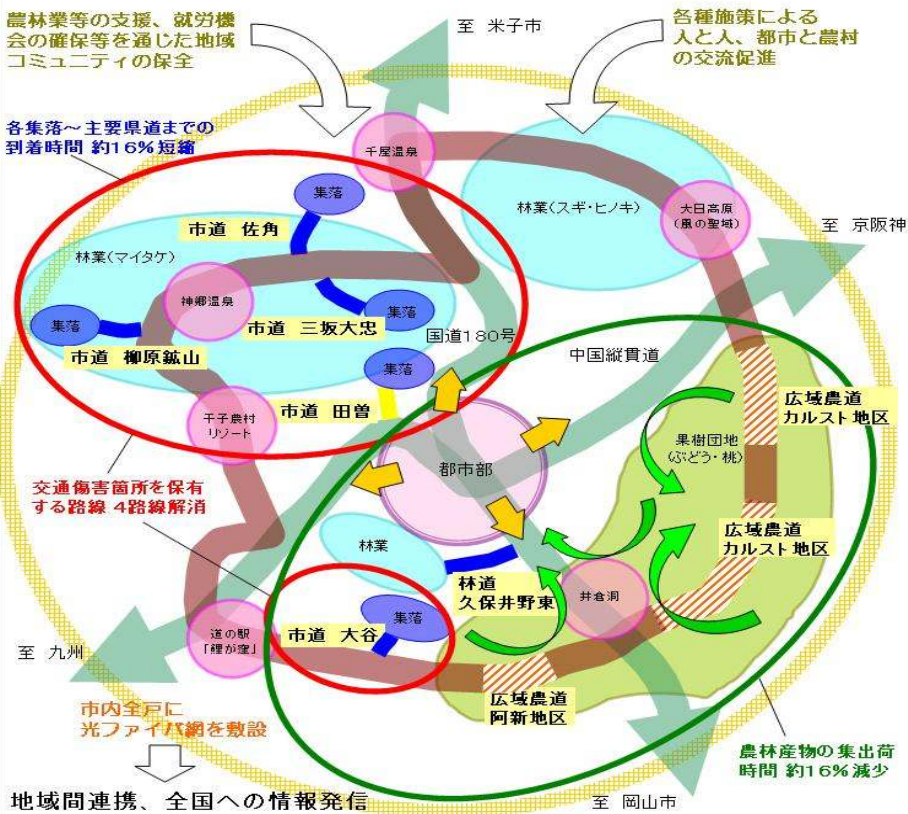
○市内の各種道路網の整備



など、各種施策を複合的に実施・支援

『うるおいとにぎわいの都市づくり計画』 ～岡山県・新見市～

【課題解決の達成状況(概念図)】



- ◇道路網、情報通信網を活用した各分野におけるネットワーク化
- ◇地域内外の交流人口増加、物流の効率化、都市農村交流の促進

- 回廊軸(県道・広域農道 他)
- 幹線公道
- 都市交流施設
- 再生計画路線(整備中)
- 再生計画路線(完了)
- 再生計画路線(未改良)

【地域再生計画に基づく取り組みの成果】

【事業実施・整備による効果】

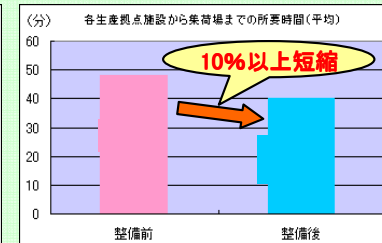
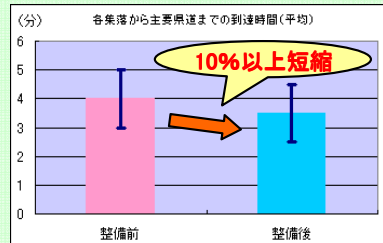
【市道】



【広域農道】



【林道】



◇市内の交通障害箇所を保有する5路線中、4路線の改良により、交通障害の4箇所を解消
 ※残り1路線についても、引き続き道路改良に取り組み、交通障害箇所の解消を図る予定

【その他、定性的な効果】

- 市内全戸に光ファイバ網を敷設したことで、インターネットへの接続やケーブルテレビの視聴などが可能となったことから、情報過疎及び難視聴が解消。個人団体等を問わず、様々な方法により高速大容量の情報通信網を活用した情報発信等が可能になった。
- 生活環境基盤の整備や支援体制の充実等により、過去に4人だけであった新規就農者が平成17年度から平成21年度までの5年間に10名就農。本市の農業生産に対する貢献だけでなく、新たな担い手の確保や人口の増加等にも寄与。
- 県南や首都圏へも出荷を行っているピーオーネの生産額が、平成17年に約6億円であったが平成21年には約9億円に到達。生産環境の充実・支援や流通の効率化など、各種施策の実施による効果が認められる。

【今後の方針】

地域再生を目指した各種施策実施による効果は非常に大きく、今後も引き続き、本市の将来都市像である「豊かさの実感 安全・快適・情報文化都市 にいみ」の実現に向け、豊かな自然を守り育み、たゆまない発展を遂げることに、市民が誇りを持って生活できる喜びを体感し、これを次世代へと引き継いでいけるまちづくりを進めるため、更なる地域再生へ向けた取り組みを展開する。